

小学校外国語教育の明日を考える

－教師たちが考慮すべきこと、研究者たちに求められていること－

酒井英樹

sakaih@Shinshu-u.ac.jp

信州大学学術研究院教育学系





CONTENTS

- ▶ はじめに
- ▶ 7つのキーワード
 - ▶ 三つの柱から成る資質・能力
 - ▶ 小中高等学校で一貫した目標設定（五つの領域別の目標）
 - ▶ 言語活動
 - ▶ 思考力・判断力・表現力
 - ▶ 文字の指導
 - ▶ 受信技能と発信技能
 - ▶ 国語教育と外国語教育の連携
- ▶ 小学校外国語教育の明日を考えるために



- ▶ 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会教育課程企画特別部会「論点整理」（平成27年8月26日）



- ▶ 「外国語ワーキング」や「言語能力の向上に関する特別チーム」



- ▶ 答申（平成28年12月20日）



- ▶ 小学校・中学校学習指導要領（平成29年3月）
- ▶ 小学校・中学校学習指導要領解説（平成29年6月・7月）



- ▶ 教育再生実行会議第3次提言「これからの大学教育等の在り方について」(平成25年5月28日)
- ▶ 第2期教育振興基本計画(平成25年～29年)
- ▶ 「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」(平成25年12月13日、文科省)
- ▶ 英語教育の在り方に関する有識者会議(平成26年2月～平成26年9月)
- ▶ 「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(諮問)」(平成26年11月20日)



「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方 について（諮問）」（平成26年11月20日）

- ▶ 国際共通語である英語の能力に ついて、文部科学省が設置した「英語教育の在り方に関する有識者会議」の報告 書においてまとめられた提言も踏まえつつ、例えば以下のような点についてどのように考えるべきか。
 - ・ 小学校から高等学校までを通じて達成を目指すべき教育目標を、「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、四技能に係る一貫した具体的な指標の形式で示すこと
 - ・ 小学校では、中学年から外国語活動を 開始し音声に慣れ親しませるとともに、高学年では、学習の系統性を持たせる観点から教科として行い、身近で簡単なことについて互いの考えや気持ちを伝え合う能力を養うこと
 - ・ 中学校では、授業は英語で行うことを基本とし、身近な話題について互いの考えや気持ちを伝え合う能力を高めること
 - ・ 高等学校では、幅広い話題について発表・討論・交渉などを行う能力を高めること



今日の話のポイント

- ▶ 教師たちが考慮すべきこと
 - ▶ 実践を報告・共有すること
 - ▶ 事例
 - ▶ 学習指導要領（解説）の趣旨を理解すること
- ▶ 研究者たちに求められること
 - ▶ 教育実践・教育政策の判断のために必要な課題を見極め、研究を進めること。
 - ▶ 学術的な意義
 - ▶ 社会的な意義
 - ▶ コミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力をどのように捉え、どのように測定するかを明確にすること。（従属変数の明確化）
 - ▶ 次なる資質・能力の検討
 - ▶ 共約可能性
 - ▶ 研究開発校などへのかかわり方（プロセスとプロダクトの両面）



キーワード1

三つの柱から成る資質・能力

▶ 学校教育法「学力の三要素」

- ▶ 基礎的な知識及び技能，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力，主体的に学習に取り組む態度

▶ 三つの柱

- ▶ ①生きて働く「知識・技能」
- ▶ ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」
- ▶ ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」



小学校・外国語活動 (CS) 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。
- (2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
- (3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。



小学校・外国語科 (CS) 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。



小学校・外国語科 (CS) 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識・技能

(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。

(2) 思考力・判断力・表現力等

(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(3) 学びに向かう力・人間性等



評価の観点



現行

知識・理解

技能

思考・判断・表現

関心・意欲・態度



言語や文化に
についての知識・理解



外国語理解の能力
外国語表現の能力



コミュニケーションへの
関心・意欲・態度



次期

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取

り組む態度

注. 教科化を意識して、中学校外国語科の
評価の観点の例を示している。



キーワード1 三つの柱から成る資質・能力

- ▶ どのように捉えるのか
- ▶ どのように測定・評価するのか
 - ▶ 研究として
 - ▶ 例、自己評価 「～することができる」という意識
 - ▶ 学習評価として



キーワード2

小中高等学校で一貫した目標設定（五つの領域別の目標）

▶ 外国語科

- ▶ 聞くこと，読むこと，話すこと〔やり取り〕，話すこと〔発表〕，書くことの五つの領域別に目標が設定された。

▶ 外国語活動

- ▶ 聞くこと，話すこと〔やり取り〕，話すこと〔発表〕
- ▶ 領域別の目標は，小中高等学校で一貫した目標となっている。



外国語活動 (CS)	小学校外国語科 (CS)	中学校外国語科 (CS)
ア ゆっくりははっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。 イ ゆっくりははっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。 ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。	ア ゆっくりははっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取るようにする。 イ ゆっくりははっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。 ウ ゆっくりははっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。	ア はっきりと話されれば、日常的话题について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。 イ はっきりと話されれば、日常的话题について、話の概要を捉えることができるようにする。 ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。

聞くこと

キーワード2

小中高等学校で一貫した目標設定（五つの領域別の目標）

- ▶ 小・中・高等学校で一貫したコミュニケーション能力の育成
 - ▶ 急ぎすぎない
- ▶ 小中連携の具体
- ▶ 実際、どの程度育成することができるのか。



外国語WG 言語能力の向上に関する特別チーム

- ▶ 時間数
- ▶ 短時間学習の効果の有無
- ▶ 国語教育と外国語教育との連携
 - ▶ 国語力 → 英語力
 - ▶ 英語力 → 国語力 ？
- ▶ 目標設定



酒井英樹・岩田伊玄・田中真由美・和田順一. (2016). 「外国語活動の時間数と児童の英語力、自己評価、態度の変容」第16回小学校英語教育学会（宮城大会）発表.

▶ 測定具

▶ 英語力

- ▶ 児童英検学校版（ブロンズ）

▶ 自己評価

- ▶ 質問紙票（平成26年度版と27年度版で若干異なる）

▶ 態度

- ▶ 質問紙票（同一の項目を使用）

▶ 実施時期

- ▶ 平成26年度末（2月）

- ▶ 平成27年度 時間数の異なる実施（指導者・指導形態は同じ）

- ▶ 平成27年度末（12月～2月）



酒井英樹・岩田伊玄・田中真由美・和田順一. (2016). 「外国語活動の時間数と児童の英語力、自己評価、態度の変容」第16回小学校英語教育学会（宮城大会）発表.

▶ 分析対象者

▶ 平成26年度と平成27年度に実施されたすべてのテスト・質問紙に回答のある児童

▶ A小学校5年生36名（-2名） A小学校6年生23名（-2名）

▶ B小学校6年生31名（-2名）

▶ 平成27年度の内容

▶ A小学校 5年生と6年生

▶ 週3単位時間、外国語活動と国際理解教育を受けた。

▶ 2単位時間 ALT と学級担任とのTT 1単位時間 15分短時間学習×週3回 担任

▶ 平成26年度の内容

▶ 4年生 20分程度×2日（ALT とのTT） 5年生・6年生 2単位時間 ALT とのTT

▶ B小学校 6年生

▶ 週1単位時間、ALTとのTTで行われた外国語活動を受けた。

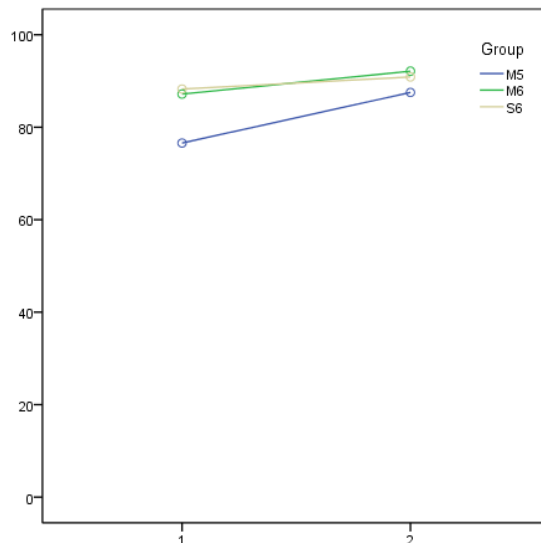
▶ 平成26年度の内容

▶ 週1単位時間 学級担任と地域人材とのTT



酒井英樹・岩田伊玄・田中真由美・和田順一. (2016). 「外国語活動の時間数と児童の英語力、自己評価、態度の変容」第16回小学校英語教育学会（宮城大会）発表.

学校	現在の学年	<i>n</i>	2015 <i>M (SD)</i>	2016 <i>M (SD)</i>
A小学校	5年生	36	76.58 (1.90)	87.53 (1.39)
A小学校	6年生	23	87.17 (2.38)	92.13 (1.73)
B小学校	6年生	31	88.26 (2.05)	90.87 (1.50)



時間の主効果

$$F(1, 87) = 45.068, p = .000$$

群の主効果

$$F(2, 87) = 7.550, p = .001$$

交互作用

$$F(2, 87) = 8.398, p = .000$$

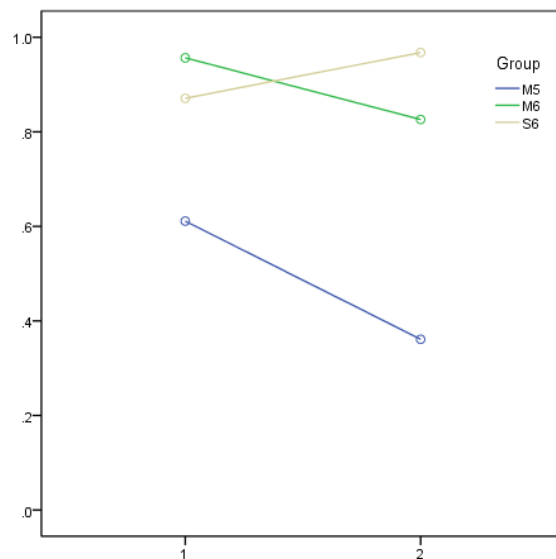
・事後比較の結果、5年生の伸びが、2つの学校の6年生の伸びと比較して統計的に有意に大きかった。

時間数の影響は見られなかった

酒井英樹・岩田伊玄・田中真由美・和田順一. (2016). 「外国語活動の時間数と児童の英語力、自己評価、態度の変容」第16回小学校英語教育学会（宮城大会）発表.

- ▶ 7. 自分の名前や好きなもの、できることなど、かんたんな自己紹介を英語でできる。

$$F(2, 87) = 4.005, p = .022$$



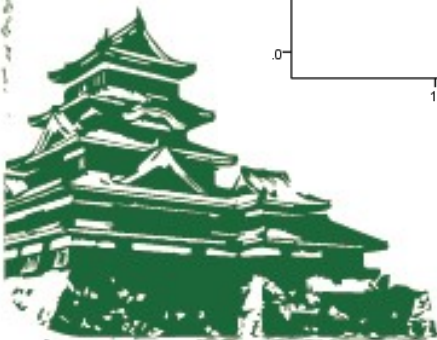
・ 時間数の要因

・ 時間数が多いと、自己評価
が下がる可能性

○インプットの多さ

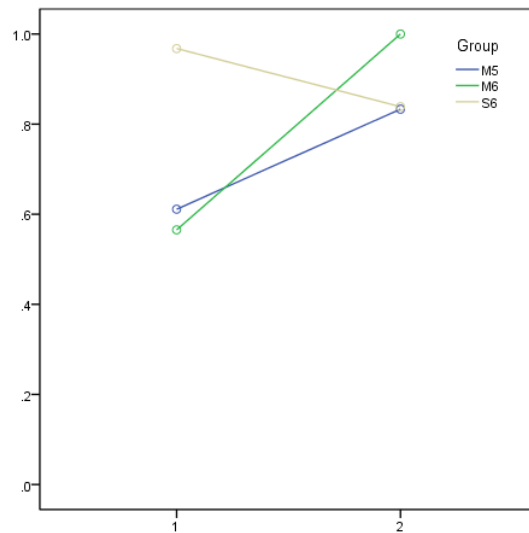
○話す機会の多さ

21項目の自己評価



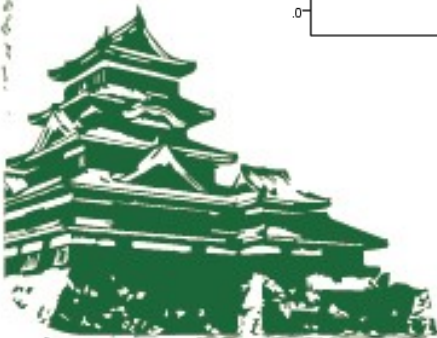
酒井英樹・岩田伊玄・田中真由美・和田順一. (2016). 「外国語活動の時間数と児童の英語力、自己評価、態度の変容」第16回小学校英語教育学会（宮城大会）発表.

- ▶ 14. 5個ぐらいのアルファベットを読んで、英語でいうことができる。



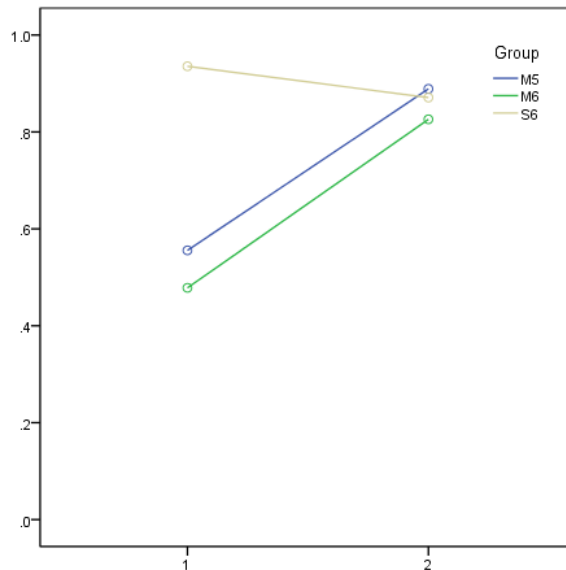
$$F(2, 87) = 10.031, p = .000$$

- ・ 時間数の要因
- ・ 時間数が多いと、アルファベットの文字を扱える可能性がある。



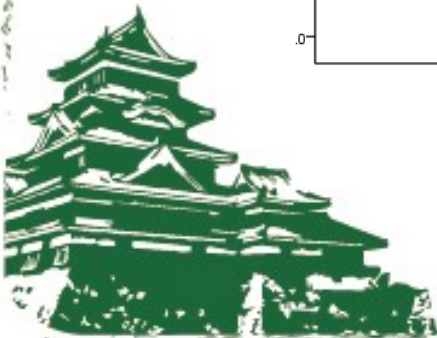
酒井英樹・岩田伊玄・田中真由美・和田順一. (2016). 「外国語活動の時間数と児童の英語力、自己評価、態度の変容」第16回小学校英語教育学会（宮城大会）発表.

- ▶ 15. AからZまでのアルファベットを讀んで、英語でいうことができる。



$$F(2, 87) = 8.430, p = .000$$

- ・ 時間数の要因
- ・ 時間数が多いと、アルファベットの文字を扱える可能性がある。

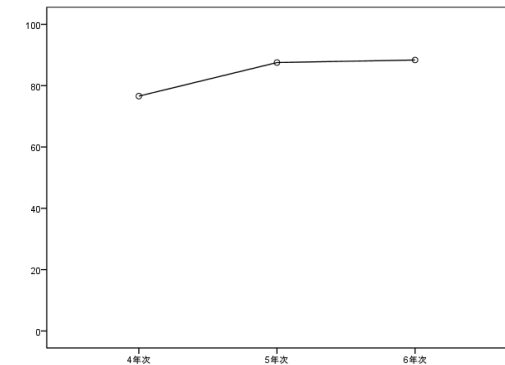


3年間の変容（未公開データ） $n = 36$

4年次（20分×2日、ALT）、5年次と6年次（計 3単位時間・・・2単位時間
ALT と学級担任とのTT 1単位時間 15分短時間学習×週3回 担任）

35時間 + 105時間 + 105時間 = 245時間
（35時間 + 35時間 + 70時間 + 70時間 = 210時間）

	4年次	5年次	6年次
M	76.58	87.53	88.36
SD	14.30	6.70	10.23



Friedman Test: $\chi^2 (36) = 31.000, p < .000$

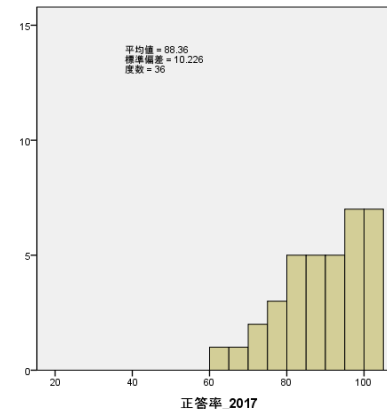
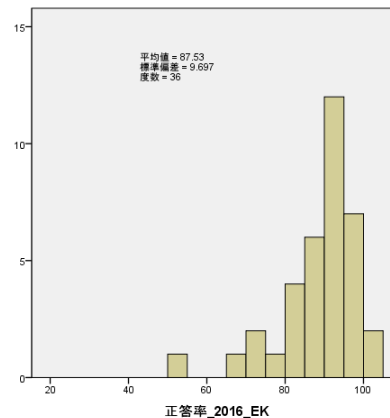
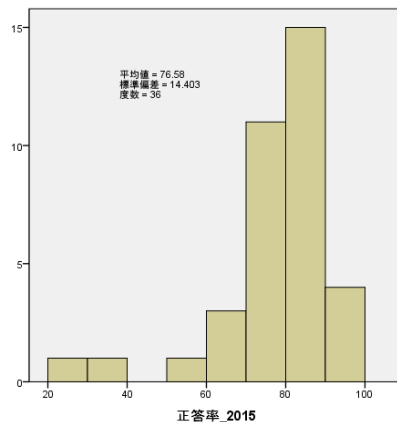
Willcoxon 符号付順位検定

2015 vs 2016: $Z = -4.887, p = .000$

2016 vs 2017: $Z = -0.841, p = .408$

2015 vs 2017: $Z = -4.698, p = .000$

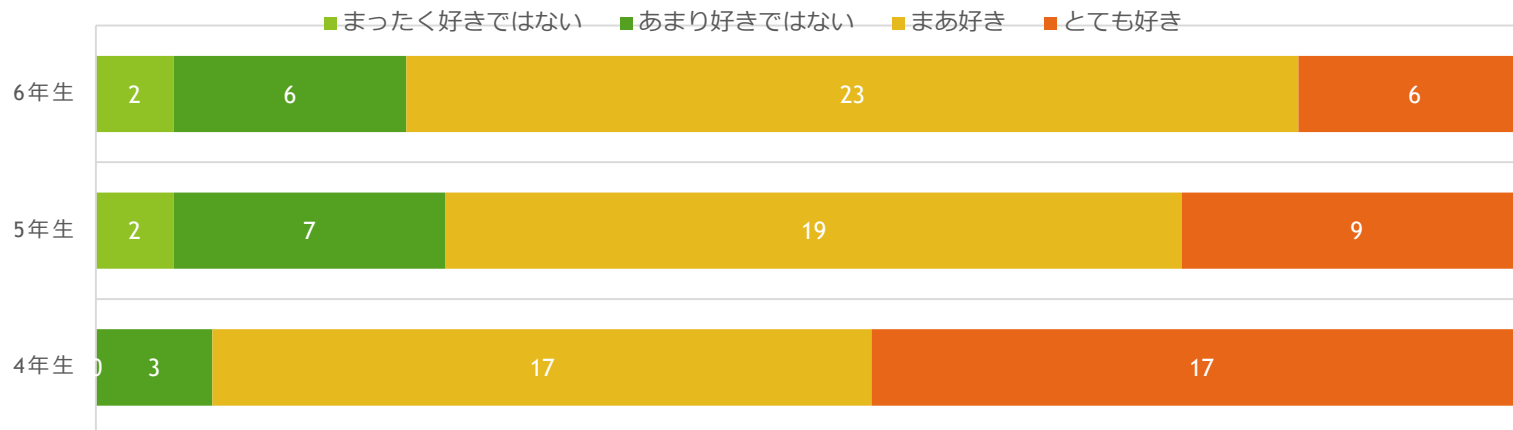
4年生から5年生、4年生から6年生
の間に有意に伸びたが、5年生から
6年生への伸びは有意ではなかつ
た。



3年間の変容（未公開データ） $n = 37$

4年次（20分×2日、ALT）、5年次と6年次（計 3単位時間・・・2単位時間
ALT と学級担任とのTT 1単位時間 15分短時間学習×週3回 担任）

小学校での英語の授業や活動の時間は好きですか



Friedman Test: $\chi^2(37) = 16.390, p < .000$

Willcoxon 符号付順位検定

2015 vs 2016: $Z = -2.439, p = .014$

2016 vs 2017: $Z = -0.474, p = .607$

2015 vs 2017: $Z = -2.984, p = .002$

4年生から5年生、4年生から6年生の間に有意に下がったが、5年生から6年生への減少は有意ではなかった。



3年間の変容（未公開データ） $n = 37$

4年次（20分×2日、ALT）、5年次と6年次（計 3単位時間・・・2単位時間
ALT と学級担任とのTT 1単位時間 15分短時間学習×週3回 担任）

		5年生				
		まったく好きではない	あまり好きではない	まあ好き	とても好き	合計
4年生	まったく好きではない	0	0	0	0	0
	あまり好きではない	1	0	0	2	3
	まあ好き	0	5	11	1	17
	とても好き	1	2	8	6	17
合計		2	7	19	9	37

		6年生				合計
		まったく好きで	あまり好きでは	まあ好き	とても好き	合計
5年生	まったく好きではない	0	2	0	0	2
	あまり好きではない	0	3	4	0	7
	まあ好き	2	1	15	1	19
	とても好き	0	0	4	5	9
合計		2	6	23	6	37

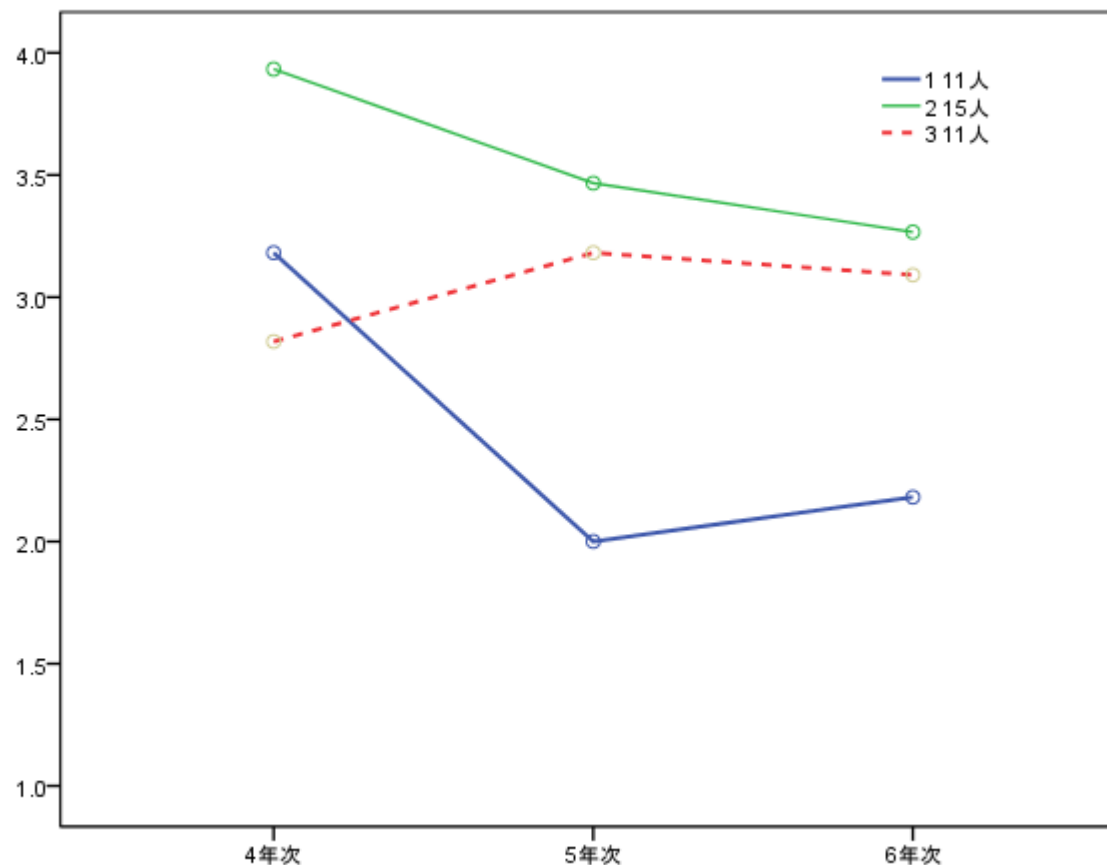
個別に変動している



3年間の変容（未公開データ） $n = 37$

4年次（20分×2日、ALT）、5年次と6年次（計 3単位時間・・・2単位時間
ALT と学級担任とのTT 1単位時間 15分短時間学習×週3回 担任）

英語の授業の時間や活動の時間が好きですか（ワード、平方ユークリッド距離）



3年間の変容（未公開データ） $n = 37$

4年次（20分×2日、ALT）、5年次と6年次（計 3単位時間・・・2単位時間
ALT と学級担任とのTT 1単位時間 15分短時間学習×週3回 担任）

4年次と5年次
できると思う
ものに○をつ
ける。

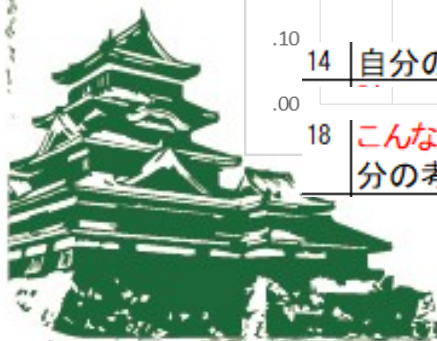
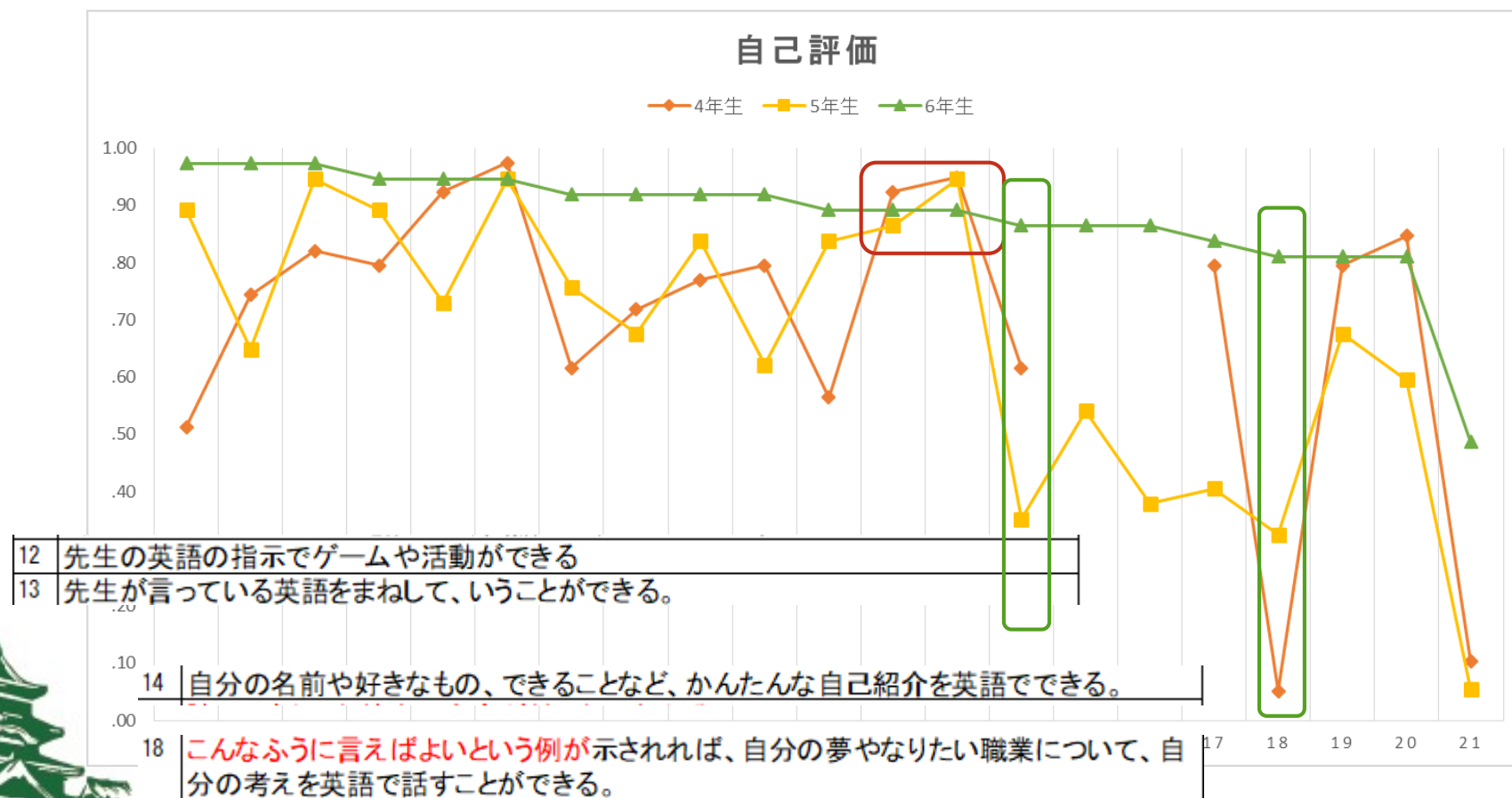
6年次 4件法を
イチゼロデー
タに変換して
いる。

ID	項目
1	AからZまでのアルファベットを読んで、英語でいうことができる。
2	こんなふうに言えばよいという例が示されれば、自分の好きなもの（スポーツ、くだもの、色、教科など）を英語でいうことができる。
3	自分の名前をアルファベットで書くことができる。
4	5個ぐらいのアルファベットを書くことができる。
5	どうぶつ、色、形、数など、身の回りのものを英語でいうことができる。
6	英語であいさつができる（Hello. How are you? など）
7	AからZまでのアルファベットを書くことができる。
8	ゆっくりと英語で話されれば、ゲームや活動などのやり方がわかる
9	アルファベットの大文字と小文字の違いがわかる。
10	自分の好きなもの（スポーツ、くだもの、色、教科など）を英語でいうことができる。
11	5個ぐらいのアルファベットを読んで、英語でいうことができる。
12	先生の英語の指示でゲームや活動ができる
13	先生が言っている英語をまねして、いうことができる。
14	自分の名前や好きなもの、できることなど、かんたんな自己紹介を英語でできる。
15	読んでもらった絵本の内容がだいたいわかる。
16	坂城町に関係するもの（店、駅、川など）を5つぐらい、簡単な英語で言うことができる。
17	自分の好きなものやできることなど、英語で聞かれたことについて、英語の単語で答えることができる
18	こんなふうに言えばよいという例が示されれば、自分の夢やなりたい職業について、自分の考えを英語で話すことができる。
19	先生の英語の話を聞いて、何を言っているかだいたい理解できる
20	ゲームや活動などのやり方を英語で聞いて、ゲームや活動をすることができる
21	自分の夢やなりたい職業について、自分の考えを英語で話すことができる。



3年間の変容（未公開データ） $n = 37$

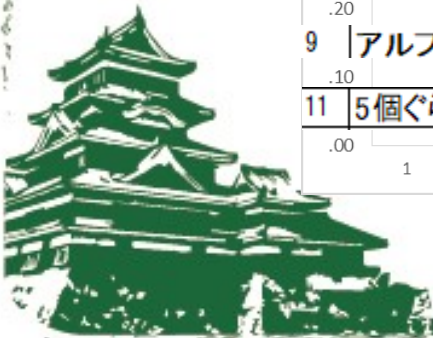
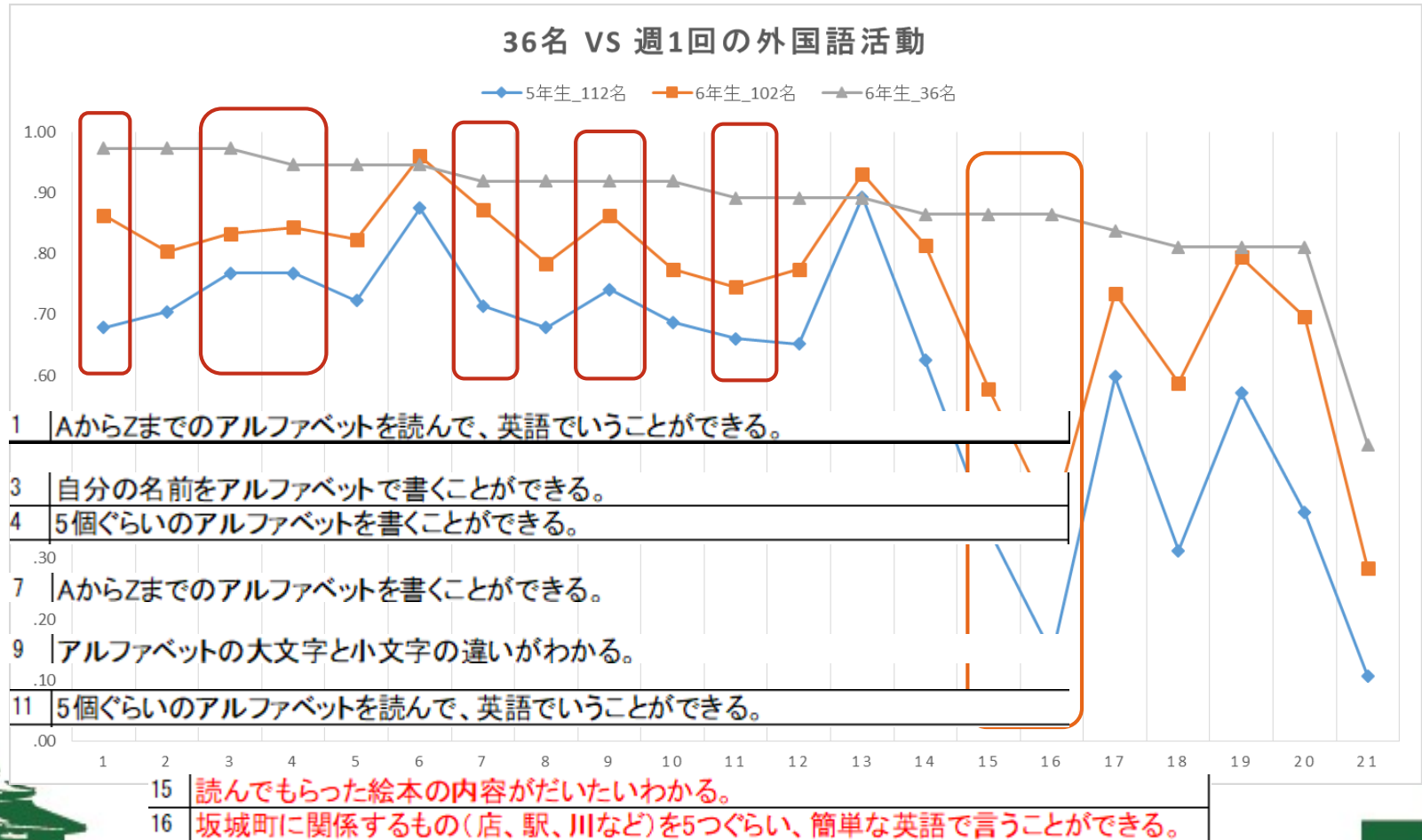
4年次（20分×2日、ALT）、5年次と6年次（計 3単位時間・・・2単位時間
ALT と学級担任とのTT 1単位時間 15分短時間学習×週3回 担任）



3年間の変容（未公開データ） $n = 37$

4年次 (20分×2日、ALT)、5年次と6年次（計 3単位時間・・・2単位時間
ALT と学級担任とのTT 1単位時間 15分短時間学習×週3回 担任）

240時間
VS
35時間と
70時間





キーワード3 言語活動

- ▶ 思考力・判断力・表現力等に関する事項については、英語の特徴や決まりに関する事項を活用して、言語活動を通して指導するとされている。そして、言語活動とは「言語材料について理解したり練習したりするための指導」とは区別されている。
- ▶ 【外国語活動】外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、**外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して**、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ▶ 【外国語科】外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、**外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して**、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。



活動を見直していくことが重要

チャンツ、タッチング・ゲーム、歌、文字を書く練習

Small Talk

- ▶ 2015年 JES 広島大会 シンポジウム
- ▶ 小学校英語における4技能の指導について－読み書き指導を取り入れるために－
- ▶ 習得から活用
(基本的な技能の習得) 文字の指導、音の指導など
↓
(活用) 外国語を用いて、読んだり、書いたりすること
- ▶ 外国語科・外国語活動にとっての「学習」
 - ▶ 「コミュニケーションに従事すること」
例えば、
 - × 英語の文字を書く練習に取り組んでいる
 - 自己紹介するために、名前をローマ字で書くことに取り組んでいる



キーワード3 言語活動

- ▶ 言語活動の工夫
- ▶ 様々な外国語教授法の知見の導入
- ▶ 理解・練習のための指導と言語活動のバランス

キーワード4 思考力・判断力・表現力

- ▶ 外国語科では思考力・判断力・表現力に関する事項として、「ア 身近で簡単な事柄について、**伝えようとする内容を整理した**上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。」や「イ 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を**推測しながら読んだり、語順を意識しながら**書いたりすること。」とされている。
- ▶ また、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方として「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、**目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること。**」とされている。

自己紹介する内容を、
一生懸命考えよう。

友達に

見知らぬ人に

ALTの〇〇先生に



外国語活動 (CS)	小学校外国語科 (CS)	中学校外国語科 (CS)
情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を使って、相手に配慮しながら、伝え合うこと。 イ 身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり質問に答えたりすること。	情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。 イ 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりすること。	情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に、表現することを通して次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉えること。 イ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること。 ウ 日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合うこと。

語順などの文構造への気付き・・・知識の習得のため
語順を意識して書く・・・思考力・判断力・表現力



学習過程

- ▶ 外国語科 (pp. 12～13)
- ▶ 外国語教育における学習過程
- ①設定されたコミュニケーションの**目的や場面、状況等**を理解する
- ②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの**方向性を決定**し、コミュニケーションの**見通しを立てる**
- ③目的達成のため、**具体的なコミュニケーションを行う**
- ④言語面・内容面で自ら学習の**まとめと振り返りを行う**
- ▶ 「学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用したりすることで、「思考力、判断力、表現力等」を高めていくことが大切になる。」



キーワード4 思考力・判断力・表現力

- ▶ 外国語活動・外国語科における思考力・判断力・表現力の検討
- ▶ その指導方法
- ▶ その評価方法
- ▶ 主体的・対話的で深い学びの実現のための授業づくり





キーワード5 文字の指導

- ▶ 文字の指導に関して、**外国語活動の聞くことの目標**では、「ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。」とされている。**外国語科の読むことの目標**では、「ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。」、「イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。」とされており、**書くことの目標**では、「ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。」、「イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。」とされている。



酒井英樹・小林比出代・滝沢雄一・伊東哲. (投稿中). 「外国語として英語を学ぶ初学者によるアルファベットの手書き文字」

▶ 参加者

- ▶ 6年生98名
- ▶ 小学3年次における日本語のローマ字表記の学習
- ▶ 5・6年次における外国語活動を通して、英語の大文字や小文字に触れたり文字を書いたりする経験はある
- ▶ 意識的かつ集中的な書くことの学習経験がない

▶ 課題

- ▶ アルファベット順に英語の大文字と小文字を書くように指示

▶ 分析

- ▶ 英語の大文字と小文字の正答率
- ▶ 誤りの種類



酒井英樹・小林比出代・滝沢雄一・伊東哲.
(投稿中). 「外国語として英語を学ぶ初学者によるアルファベットの手書き文字」

文字	大文字	小文字	正答率の差 (大文字 - 小文字)
A/a	98.0	83.7	14.3
B/b	98.0	61.2	36.7
C/c	96.9	74.5	22.4
D/d	95.9	48.0	48.0
E/e	95.9	64.3	31.6
F/f	91.8	39.8	52.0
G/g	92.9	44.9	48.0
H/h	89.8	52.0	37.8
I/i	83.7	58.2	25.5
J/j	69.4	31.6	37.8
K/k	76.5	57.1	19.4
L/l	69.4	29.6	39.8
M/m	63.3	38.8	24.5
N/n	51.0	38.8	12.2
O/o	91.8	63.3	28.6
P/p	85.7	57.1	28.6
Q/q	91.8	27.6	64.3
R/r	81.6	57.1	24.5
S/s	84.7	63.3	21.4
T/t	77.6	55.1	22.4
U/u	81.6	61.2	20.4
V/v	74.5	51.0	23.5
W/w	71.4	50.0	21.4
X/x	73.5	51.0	22.4
Y/y	71.4	52.0	19.4
Z/z	75.5	57.1	18.4



酒井英樹・小林比出代・滝沢雄一・伊東哲. (投稿中). 「外国語として英語を学ぶ初学 者によるアルファベットの手書き文字」

大文字の困難度

研究	困難度
村石・天野 (1972)	$A > B > Q > C > O > X > K > H > P > M > D, U, Z > T > I$ $> N, S > E > V, Y > G, W > R > F, L > J$
アレン玉井 ¹ (2001)	$A, B, K, O > H > J, W > N > M > L > R$
国立教育政策研究所 (2009)	$A > G > F > M > D$
石濱 (2016)	$A, B, D, O, P > C, F, Q > K, E, G, M, T, U > H, S, W, X >$ $L, N > I, Y > R, V, Z > J$
本研究	$A, B > C > D, E > G > F, O, Q > H > P > S > I > R, U > T$ $> K > Z > V > X > W, Y > J, L > M > N$



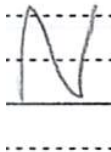
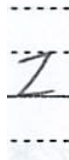
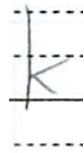
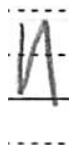
酒井英樹・小林比出代・滝沢雄一・伊東哲.
(投稿中). 「外国語として英語を学ぶ初学者
によるアルファベットの手書き文字」

小文字の困難度

研究	困難度
国立教育政策研究所 (2009)	$t > r > h > > i > e$
石濱 (2016)	$a > i, o, s, u > k, m, c, d, p, z > e, n, r, t > f, v, w, x, y > b,$ $g, h > l > j, q$
本研究	$a > c > e > o, s > b, u > i > k, p, r, z > t > h, y > v, x > w >$ $d > g > f > m, n > j > l > q$

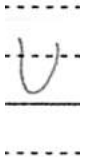
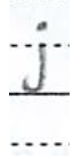


酒井英樹・小林比出代・滝沢雄一・伊東哲. (投稿中). 「外国語として英語を学ぶ初学 者によるアルファベットの手書き文字」

他の文字との混同			
	大文字 F の箇所に書かれたもの	小文字 n の箇所に書かれたもの	小文字 n の箇所に書かれたもの
大文字・小文字の混同			
	大文字 I の箇所に書かれたもの	大文字 K の箇所に書かれたもの	小文字 l の箇所に書かれたもの
鏡映文字			
	大文字 J の箇所に書かれたもの	大文字 N の箇所に書かれたもの	小文字 r の箇所に書かれたもの

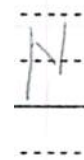
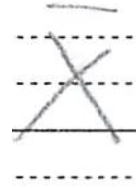
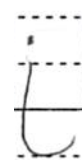


酒井英樹・小林比出代・滝沢雄一・伊東哲.
(投稿中). 「外国語として英語を学ぶ初学者
によるアルファベットの手書き文字」

大きさ・長さの誤り			
	大文字 U の箇所にかかれたもの	小文字 j の箇所にかかれたもの	小文字 l の箇所にかかれたもの
四線の上の配置の誤り			
	大文字 J の箇所にかかれたもの	小文字 a の箇所にかかれたもの	小文字 g の箇所にかかれたもの



酒井英樹・小林比出代・滝沢雄一・伊東哲. (投稿中). 「外国語として英語を学ぶ初学 者によるアルファベットの手書き文字」

変体			
	大文字 K の箇所に書かれたもの（上部の斜線が短い）	大文字 N の箇所に書かれたもの（右側の縦線が短い）	大文字 X の箇所に書かれたもの（直線が付加されている）
組み合わせ			
	大文字 J の箇所に書かれたもの（「大文字・小文字の混同」と「鏡映文字」）	小文字 q の箇所に書かれたもの（「大文字・小文字の混同」と「大きさ・長さの誤り」）	小文字 y の箇所に書かれたもの（「大文字・小文字の混同」と「配置の誤り」）



酒井英樹・小林比出代・滝沢雄一・伊東哲. (投稿中). 「外国語として英語を学ぶ初学者 によるアルファベットの手書き文字」

「他の文字との混同」で書かれた文字 (大文字)

大文字	頻度	音韻的類似性	順番の近さ	音韻的類似性	
				と順番の近さ	その他
F	3	N (1)、S (1)			I (1)
G	2		Y (1)		W (1)
I	2	Y (1)	H (1)		
L	16		R (1)	M (5)、N (10)	
M	27			L (3)、N (24)	
N	30			L (6)、M (21)	W (3)
P	2		R (2)		
R	5				I (2)、W (1)、Y (2)
S	2	X (1)			H (1)
T	3	G (1)、P (1)			Y (1)
U	1				M (1)
V	1		X (1)		
X	3		V (1)、Y (1)、Z (1)		
Y	4		W (1)、X (1)、Z (1)		H (1)
Z	2				T (1)、Y (1)



キーワード5 文字の指導

- ▶ 言語活動の工夫
- ▶ 理解・練習のための指導と言語活動の工夫
- ▶ 文字の扱い方
 - ▶ 日本語の文字を書くことを習得している児童が、第二言語としての文字をどのように習得するのか。
 - ▶ 右利き、左利きの児童への配慮
 - ▶ 目標設定の工夫
 - ▶ イギリスのhandwriting の目標 (小林, 2017)
 - ▶ 読みやすさ、正確さ、正整美 → 自然な運筆 → 作品として人を引き付ける
 - ▶ 小林比出代. (2017). 「イギリスにおけるHandwritingの教育目標」酒井英樹・滝沢雄一・亘理陽一編「小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズー小学校外国語科内容論」三省堂.

キーワード6 受信技能と発信技能

- ▶ 内容の取扱いに関する留意事項（外国語科）として、「言語材料については、平易なものから難しいものへと段階的に指導すること。また、児童の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意すること。」とされている。
- ▶ どう捉えるか



キーワード7 国語教育と外国語教育の連携

- ▶ 「国語教育と外国語教育は、学習の対象となる言語は異なるが、ともに言語能力の向上を目指すもの」であることから、連携が求められている。



ローマ字（解説）

- ▶ 3年生 国語教育 日本語のローマ字表記
 - ▶ 日本語を、英語の文字でも使われるローマ字で表記すること。（ローマ字は、英語だけの文字ではない。）
 - ▶ 名前と地名などは、英語の中で使ってもよい。
 - ▶ 日本語の音は、多くの場合、子音＋母音で構成されている。
 - ▶ $k + a \rightarrow ka$
- ▶ 3年・4年 外国語活動 聞くこと
 - ▶ 英語の文字の名称の読み方を聞いて、文字を特定すること
 - ▶ 英語らしい文字の音声 ケー、エー $\rightarrow /kei/ /ei/$
- ▶ 5年・6年 外国語科 書くこと
 - ▶ 例を見ながら、自分の名前や好きなものを書くこと



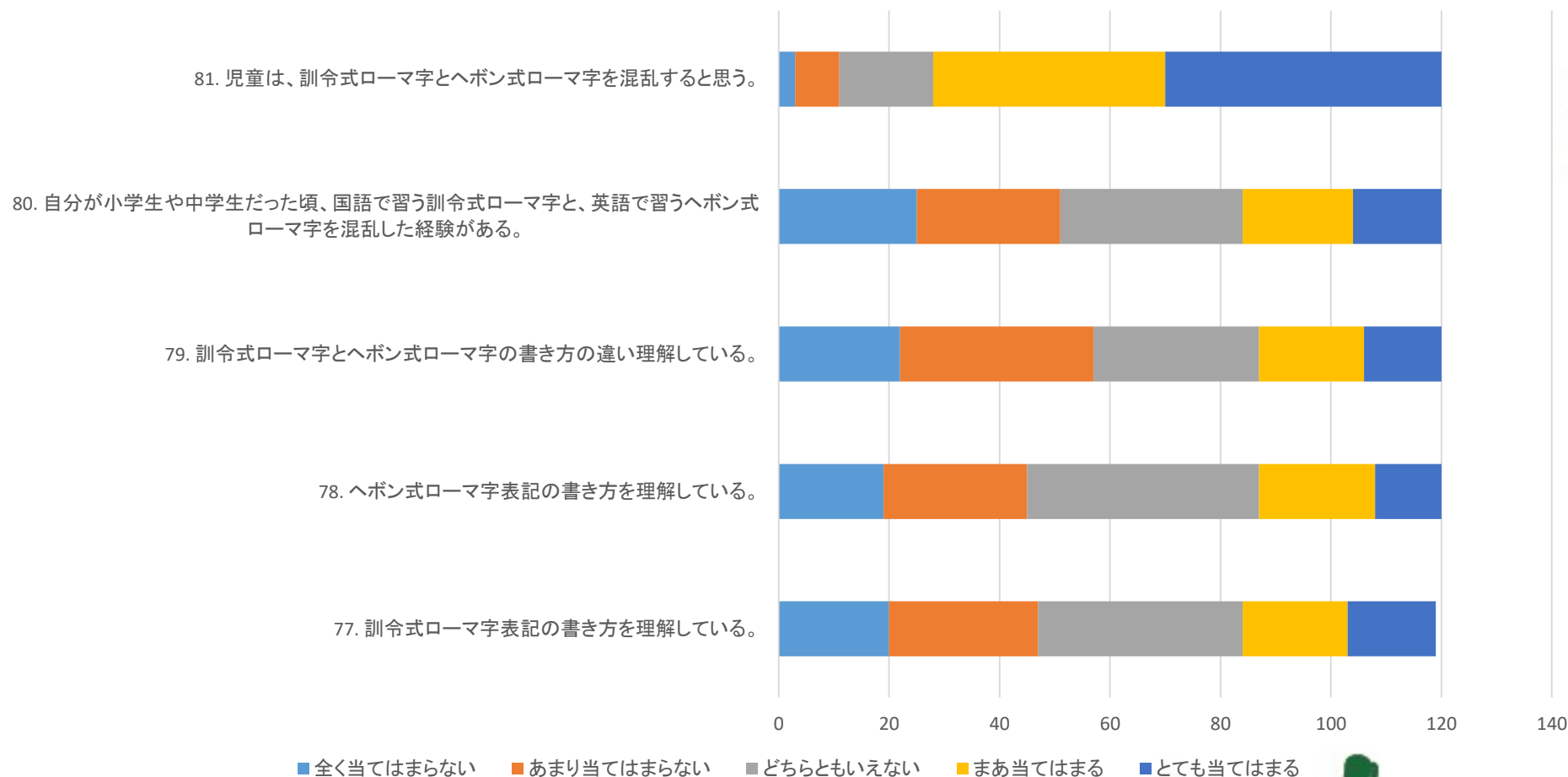
酒井英樹・小林比出代・滝沢雄一・伊東哲. (投稿中). 「外国語として英語を学ぶ初学者によるアルファベットの手書き文字」

文字の種類ごとの正答率の平均値

文字の種類	対象の文字	文字数	大文字	小文字
ローマ字で用いられる母音字	A/a, E/e, I/I, O/o, U/u	5	90.2%	66.1%
ローマ字で用いられる子音字	B/b, D/d, G/g, H/h, K/k, M/m, N/n, P/p, R/r, S/s, T/t, W/w, Y/y, Z/z	14	79.7%	52.3%
ローマ字で用いられない子音字	C/c, F/f, J/j, L/l, Q/q, V/v, X/x	7	81.0%	43.6%



初等英語科指導法基礎A (n = 120)



自分は混乱した経験がないが、児童は混乱していると思っている



連携

- ▶ 小中高の連携
- ▶ 国語教育と英語教育の連携
- ▶ 外国語活動と高学年外国語科の連携（学年間）
- ▶ 学校教育と地域との連携

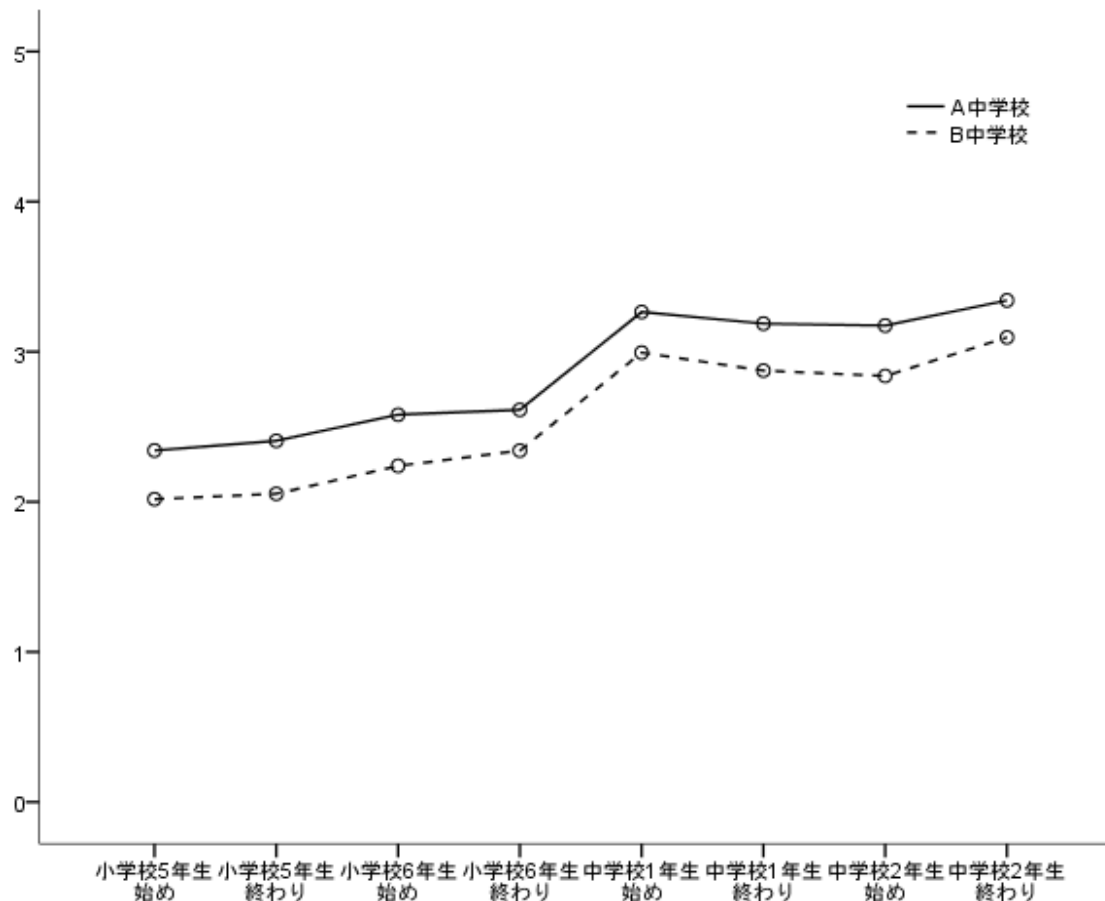


酒井英樹・日吉信秀・栗栖博愛・滝沢雄一・木下愛里. (印刷中). 「中学生を対象にした英語学習動機の変容とその理由—小学5年生から中学2年生の時期の回顧的調査—」 JABAET Journal, 21.

- ▶ 参加者 中学2年生 322人
 - ▶ A中学校 155名 B中学校 167名
- ▶ 質問紙票
 - ▶ 時期は8時点（5年生の始めと終わり、6年生の始めと終わり、1年生の始めと終わり、2年生の始めと終わり）
 - ▶ 「次の時期に、あなたの英語学習のやる気はどれくらいでしたか」 5件法（0 まったくやる気がない、1 ほとんどやる気がない、2 少ししかやる気がない、3 まあまあやる気がある、4 とてもやる気がある）
 - ▶ 「それぞれの時期において、英語を勉強するやる気が高まったり、やる気なくなったり少なくなったりした経験があれば、具体的に教えてください」 自由記述回答
- ▶ プロファイル分析
 - ▶ 研究課題1「小学5年生から中学2年生までの英語学習の動機づけはどのように変容するか」
 - ▶ 研究課題2「小学5年生から中学2年生までの英語学習の動機づけは学校によって異なるか」



酒井英樹・日吉信秀・栗栖博愛・滝沢雄一・木下愛里. (印刷中). 「中学生を対象にした英語学習動機の変容とその理由—小学5年生から中学2年生の時期の回顧的調査—」 JABAET Journal, 21.



学校と時期の交互作用 $F(2.361, 755.530) = 0.150, p = .892$, partial eta squared = .000

→ 平行性

学校の主効果 $F(1, 320) = 13.077, p = .000$, partial eta squared = .039

→ A中学校 > B中学校

時期の主効果 $F(2.361, 755.530) = 72.088, p = .000$, partial eta squared = .184

→ 中学校1年生から2年生への変わり目以外の学年の移行期に英語学習への動機づけが強くなる

→ 中学校2年生は、始めから終わりにかけて統計的に有意に上がっていた。

酒井英樹・日吉信秀・栗栖博愛・滝沢雄一・木下愛里. (印刷中). 「中学生を対象にした英語学習動機の変容とその理由—小学5年生から中学2年生の時期の回顧的調査—」 JABAET Journal, 21.

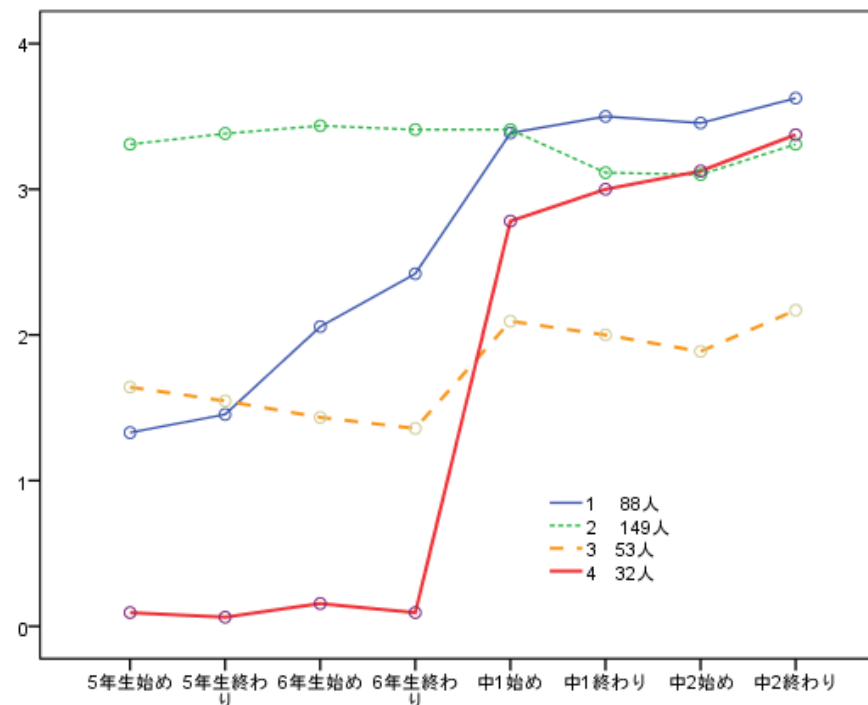
動機の変容の度合い	学年			
	小学5年次	小学6年次	中学1年次	中学2年次
-3	0	2	5	0
-2	2	4	8	3
-1	21	24	70	23
0	259	240	174	212
1	39	46	62	71
2	1	4	2	12
3	0	2	1	1
計	322	322	322	322
動機減衰群	23	30	83	26
動機高揚群	40	52	65	84
正確確率検定	$p = .043$	$p = .020$	$p = .162$	$p = .000$



酒井英樹・日吉信秀・栗栖博愛・滝沢雄一・木下愛里. (印刷中). 「中学生を対象にした英語学習動機の変容とその理由—小学5年生から中学2年生の時期の回顧的調査—」 JABAET Journal, 21.

※データを再分析したもの

クラスター分析（ワード、平方ユークリッド距離）



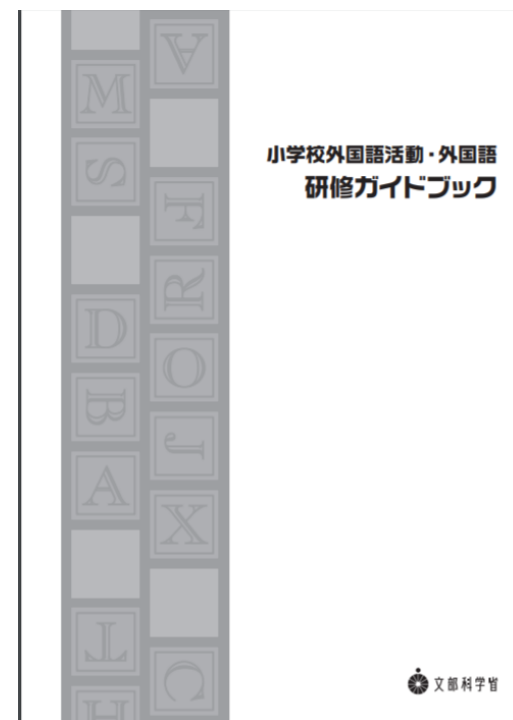
教員養成・研修

▶ 外国語（コアカリキュラム）

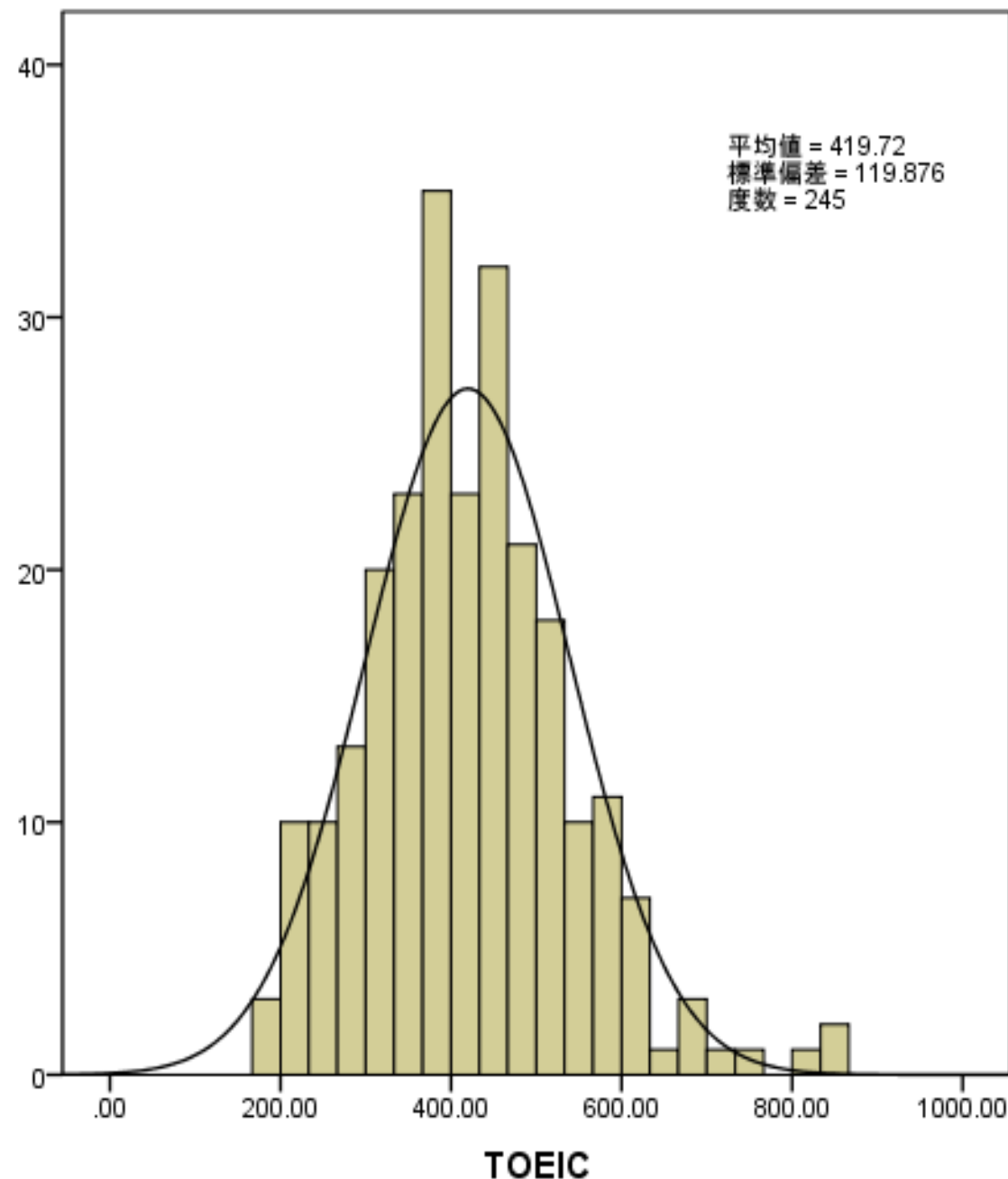
▶ 指導法に関する科目

▶ 教科に関する科目

▶ 『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』



- ▶ 酒井英樹・内野駿介.
「小学校教員養成において必要とされる 知識・能力に関する大学生の自己評価—小学校教員養成課程外国語（英語）コア・カリキュラムの点から—」（JES発表）



まとめとして

- ▶ 教師たちが考慮すべきこと
 - ▶ 実践を報告・共有すること
 - ▶ 事例
 - ▶ 学習指導要領（解説）の趣旨を理解すること
- ▶ 研究者たちに求められること
 - ▶ 教育実践・教育政策の判断のために必要な課題を見極め、研究を進めること。
 - ▶ 学術的な意義
 - ▶ 社会的な意義
 - ▶ コミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力をどのように捉え、どのように測定するかを明確にすること。（従属変数の明確化）
 - ▶ 次なる資質・能力の検討
 - ▶ 共約可能性
 - ▶ 研究開発校などへのかかわり方（プロセスとプロダクトの両面）



小学校外国語教育の明日を考える

ブドウ



リンゴ



善光寺



松本城



開智学校



そば



子どもたち





長野県PRキャラクター
「アルクマ」
©長野県アルクマ

Thank you!

SHINSHU UNIVERSITY